

台風の接近に伴う農作物等の管理対策の徹底について

令和4年8月12日
福井県農業総合指導推進会議

台風の接近による大雨等の農作物への被害防止に向け、以下の対策徹底をお願いします。

○大雨対策

- ・大豆や野菜、花き圃場は、排水溝の手直し等の排水対策を行う。
- ・軟腐病等の病害を防ぐため、殺菌剤の散布を行う。

○強風対策

- ・中生、晩生品種は、湛水できる場所は水をためて稲株の損傷を防ぐ。
- ・ハウスのフィルム、取り付け金具、ハウスバンドの破損や緩みがないかを確認する。また、開口部（入口等）をしっかりと閉める。
- ・果樹の支柱の点検、補強を行う。ナシ棚の「あおり止め」を点検する。

1 共通事項

- ・先の集中豪雨により地盤が緩んでいることから、豪雨・強風の中でのほ場の見回りは、大雨や強風がおさまるまで行わない。
- ・大雨がおさまった後でも、増水した水路等の危険な場所には近づかない。
- ・圃場の冠水や浸水を防ぐため、排水溝から速やかに排水されるように崩れた排水溝を掘り直す。特に、以前に冠水や浸水した圃場は、重点的に排水対策を実施する。
- ・台風通過後、適切な病害虫防除に努める。

2 園芸施設等

<通過前>

- ・ハウスへの風の侵入による浮き上がりや変形を防ぐため、フィルム、取付金具、ハウスバンド等破損している箇所がないか確認し、早急に修繕する。また、風が強くなってきたら天窓、サイド、入口を閉める。
- ・パイプの埋め込みが浅くなっていないか確認し、浅い場合は、土を入れて締め固める。
- ・周囲の防風ネットも飛ばされないように、点検、補強を行う。風により飛ばされやすいものは片づけておく。

- ・換気扇がある場合は、稼働させてハウス内を負圧にする。

<通過後>

- ・施設、機器の点検を行い、破損した場合は早急に修繕する。
- ・浸水した場合は、排水ポンプや溝切り等により、速やかに排水する。
- ・ハウス内の適切な温湿度管理に努める。
- ・マルチ栽培をしている畝が冠水した場合は、畝内が水分過多となりやすいので、マルチを除去したり、畝肩までめくり上げたりして、土を乾かす。
- ・土壌表面が固くしまった場合は、軽く中耕し、表土の通気をよくする。

3 水稲

<通過前>

- ・ 中生、晩生は、湛水する。

<通過後>

- ・中生、晩生は、排水後、間断通水をする。
- ・風台風の場合は籾の乾燥が進むため、早生品種は水分を確認し適期に収穫する。乾燥した籾は、乾燥機搬入後に、低温または無加温で仕上げる。
- ・出穂期直後の稲は、褐変籾、茶米が発生しやすいため、風で強くもまれたところは、ブラシン剤を散布する。

4 大豆、ソバ

<通過前>

- ・ 速やかに排水できるように、排水溝や落水口の確認と手直しをする。

<通過後>

- ・速やかに排水する。

5 野菜(露地)

<通過後>

- ・ 速やかに排水できるように、排水溝や落水口を確認し手直しを行う。
- ・冠水した場合は、排水ポンプや溝切り等により、速やかに排水する。
- ・ 軟腐病等の病害予防のため、殺菌剤を散布する。
- ・被害の拡大を防止するため、罹病株は直ちに抜き取り圃場外に廃棄する。
- ・追肥、液肥の葉面散布等により生育の回復に努める。
- ・強風により倒伏した場合は、株を起こす。

6 果樹

<通過前>

- ・枝の揺れによる果実の傷や枝折れを防ぐため、支柱等の点検、補強、設置を行う。
- ・ナシ等の棚栽培では、風による棚面の動揺を防ぐため、棚の「あおり止め」などの点検を行うとともに、枝梢を棚に誘引・結束しておく。

<通過後>

- ・倒木した場合は速やかに立て直し、支柱等にくくりつける。枝が裂けた場合は傷口を合わせ結束する。折れた場合は切り戻す。いずれの場合も癒合剤を塗布する。
- ・傷果等が発生した場合は摘果を徹底する。

7 花き

<通過前>

- ・フラワーネットの支柱はしっかり打ち直し、中間にタルキガイを増やして補強する。
- ・畝の横風に対しては1、2本おきに隣りの畝の支柱どうしをハウスバンドで連結して固定する。
- ・ネットは花の先端から3分の1程度下がったところで支持する。

<通過後>

- ・強風により傾いた花は、茎や花の曲りを防止するため、株を早急に立て起こす。
- ・株腐れや根腐れを防止するため、畝間の排水を行う。
- ・病気の発生が懸念される場合は、薬剤散布を行う。